

在京磐高同窓会報原稿「国のまほろば」

古事記にこの歌があります。倭健命（日本武尊 やまとたけるのみこと）の歌です。

倭（やまと）は 国のまほろば  
たたなづく 青垣 山ごもれる  
倭し（しは強調）うるはし

大和は国々の中でも格別に優れた国だ。幾重にも重なる青々と木々の茂った山々。その山々に囲まれた大和こそは本当に美しい国だ。

という意味です。倭と書くより、「やまと」としたほうが柔らかで情がこもっています。

景行天皇の命により、西に熊襲（くまそ）、東に蝦夷（えぞ）を討ちに行き、精根尽き果てた姿で鈴鹿の山（三重県）にたどり着き、そこから故郷の大和を望んで詠んだ歌です。

この「大和」は「大和の国」すなわち奈良県のことであるけれども、日本国を指す大和という意味で解釈してもおかしくはないという説もあります。

さながら、我々にとっては、まほろばは、故郷いわきであります。大震災後、原子力発電所事故があつて、様々な風評被害の中、差別の対象になればなるほど、故郷いわきを考えずにはいられません。

生徒たちもそうです。今の生徒たちは、小学校1年生から3年生の時に大震災を経験しました。故郷から離れ、点々と生活の拠点を移した者もおります。高校入学と同時に、他県から磐城高校を受験し故郷に戻ったものもいます。双葉郡で被災し、いわきに住宅を建て、中学時に転校した者もいます。様々な経験則にはない経験の中から生徒たちはそれぞれに立ち上がってきました。

森有正が、体験と経験の違いを述べていますが、過去の通り過ぎた個人的な体験ではなく、今もそのことにおいて刻一刻とその意味を問い返さなければならぬまさしく経験として彼らや彼女たちは、そのことを消えない課題として持ち続けています。

それでも、心の底から、彼ら彼女たちは、福島復興に寄与するのだという心からの願いを持っています。

今、本校化学部が、火力発電所で使用済みとして産出されるフライアッシュが、放射線を原子レベルで吸着するのではないかという仮定から、研究を

進めています。まさしく、もう一度、この故郷をよみがえらせる試みとして彼ら彼女らは、研究を進めるのです。

「風の谷のナウシカ」の映画では、オームの住む森は、火の 7 日間戦争という戦闘で汚染されてしまいましたが、やがてその自浄作用によって、浄化された空気を放つ森に生まれ変わります。まさしくそのようなことが、このいわきから生まれるのではないかと心から願っております。

活性炭素繊維 (Activated Carbon Fiber、以下 ACF) は、繊維状の活性炭のことです。セルロース系、PAN 系、フェノール系、ピッチ系繊維を原料として製造され、一般的に知られている粒状や粉末状の活性炭とは異なる、新しい高機能材料です。

ACF の繊維直径は、約  $5 \sim 30 \mu\text{m}$  と粒状活性炭 (粒径約  $500 \sim 5000 \mu\text{m}$ ) に比べ微細で表面積が広く、細孔直径は  $15 \sim 20 \text{ \AA}$  付近にピークを有し粒状活性炭に比べミクロ孔で構成されているため吸脱着速度が速くかつ低濃度の吸着性能に優れています。

粉末状活性炭 (粒径約  $5 \sim 30 \mu\text{m}$ ) と比べた場合にも、取扱時に微粉末の発生が少なく、繊維状形態のため紙状、織物状、フェルト状など多様な形に加工ができます。活性炭素繊維は防護服にも応用されています。

この研究によって、捨てるものとしてのフライアッシュが活用でき、放射線の除去に活用されるなら、故郷いわきは甦るでしょう。

いわきは、国のまほろば  
たたなづく 人垣 海ごもれる  
いわきこそ うるわし

いわきは国々の中でも格別に優れた場所 (故郷 国) だ。幾重にも重なる歴々とした人のつながり。そのつながる人の心に咲く海に囲まれたいわきこそは本当に美しい場所 (故郷 国) だ。

この研究にご賛同される方々や、企業や機関において、そのためのつながりをいただければこれ以上の喜びはありません。ぜひご賛同いただければ幸いです。今後の生徒たちの研究を見守っていきたいと考えます。